

～もっと楽しく子育てを！ママの求める産後ケア～

平成28年地域政策研究センター(地域提案型・後期) 採択課題

課題名：盛岡市在住の産後の女性のケアニーズの把握

研究代表者：看護学部 教授 福島裕子

課題提案者：盛岡市子ども未来部

研究メンバー：野口恭子・アンガホッフア司寿子・金谷掌子・木地谷祐子（看護学部）

小川睦子・小柳美幸（盛岡市子ども未来部）

技術キーワード：産後のニーズ、産後ケア

▼研究の概要（背景・目標）

盛岡市は、平成28年4月に「子育て世代包括支援センター」を開設し、利用者から「ゆっくりと話を聞いてもらえた」等、一定の成果を上げている。しかし、妊婦への支援が充実した一方で、産後ケアが必要な事例も確認されており、盛岡市の産後ケア事業の検討が課題となっている。盛岡市における産後の女性の支援ニーズを明らかにすることを目的とし、調査を行った。

▼研究の内容（方法・経過）

1. 研究参加者：盛岡市に在住3年以内に分娩をし、盛岡市が行う母子保健事業や子育て支援事業に参加をした母親
2. 調査内容：産後に大変だったことや産後に利用をした支援、産後に利用しなかった支援等
3. 調査期間：平成29年6月～7月
4. 分析方法：単純集計、カイ二乗検定

▼研究の成果（結論・考察）

1. 退院時の産後の生活や子育てに対する不安や心配を抱えていた母親は、全体の65%であった（n=720）
2. 産後の大変だったことを尋ねたところ、初産婦は「自分自身の身体のこと」が最も多く、次いで「自分自身の精神のこと」が多かった。経産婦で最も多かったものは、「上の子どものこと」であった。
3. 退院後に利用をしたサービスの上位3つは、「専門職による赤ちゃん訪問」、「乳房ケア授乳支援」、「子育て相談」であり、確立された支援であることから利用しやすかったと考えられる。
4. 産後6か月までに利用したいサービスの上位3つは、「母親の休憩・託児」、「子どもの一時預かり」、「産後のエクササイズやリラクセス法」であり、母親の心身に焦点を当てた支援を求めていることが分かった。
5. 自由記述では、<既存の子育て支援の満足感><子育て支援事業体制の設備への要望><子育て支援センターへの要望><母親の体調不良時やリフレッシュしたいときに利用できる支援事業整備への要望>の5つのカテゴリーが抽出された。

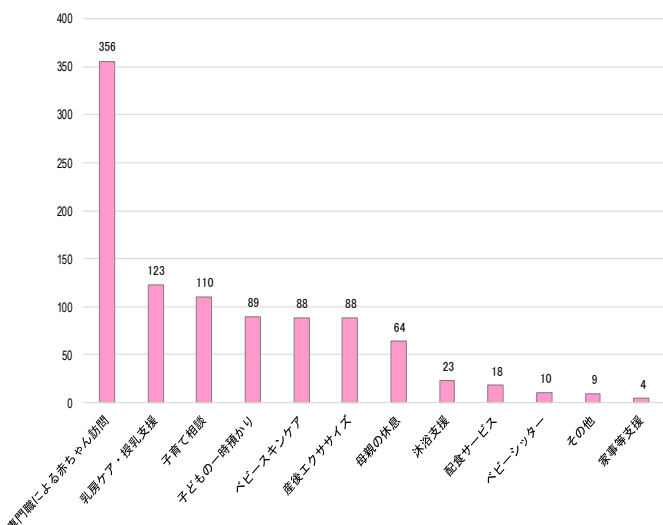


図1.退院後に実際に利用したサービス

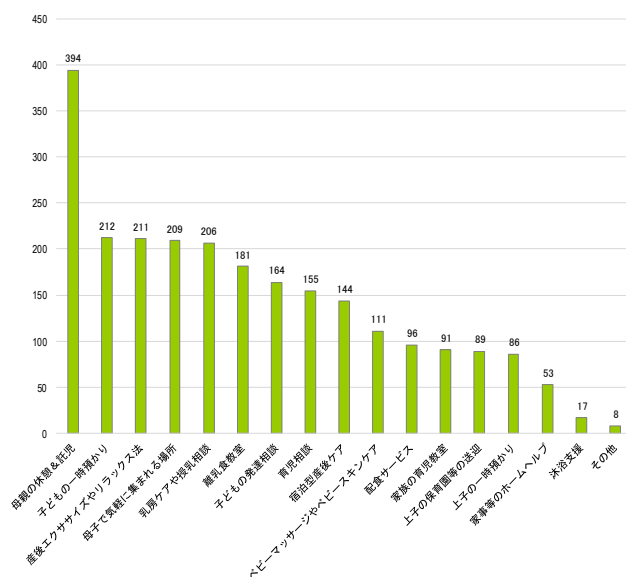


図2.産後の利用希望サービス

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 産後の母親が実際に利用をした支援は子育てや授乳に関するものが多かったが、希望をする支援は母親の休憩やリラクセス法、子どもの託児や一時預かりであった。
2. 母親達の“利用しやすい”支援の構築に向け、調査結果を丁寧に分析をしていくことが課題である。
3. 研究に参加して頂いた盛岡市在住のお母さま方に感謝を申し上げます。（謝辞）